

地域の宝・魅力を知って

東部中1年生が活用策を披露



「総合学習」で学び
実践活動から考察

「郷土愛の醸成」をテーマに掲げ、酒田市平田・松山両地域の宝・魅力を探し出し、その活用策について考察してきた酒田市の東部中学校（赤塚枝美校長）の1年生による総合学習発表会「『地域の宝』コンテツツ発表会」が10日、同校体育館で行われ、学びに協力した企業・団体の関係者が見守る中、生徒たちが堂々と成果を披露した。

市中期観光戦略アクション

郷土愛の醸成に向けて地域の宝を発表する東部中の1年生たち

ンプログラムに基づき昨年6月に設立した「酒田DMO」（同市、荒井朋之理事長）を中心に、いずれも市内のプレステージ・インタナショナル山形BPOパーク、JR東日本庄内統轄センター、ANAあきんど庄内支店、NPO法人「ひらた里山の会」、アイアイひらたを運営する「ひらた悠々の杜」の協力で、生徒たちは昨年7月以降、総合学習を活用し、これまで8回にわたって「平田・松山の宝」を探した上で、その宝をフラッシュアップする実践活動に取り組んできた。この日は1年生76人が6・7人ずつ12班に分かれてそれぞれ発表した。平田地域にある飽海三名瀑の一つ「十二瀧」の魅力を探った班は、周辺での散策ツアー、ウォークラリーの開催を提案。首都圏に住む家族連れをターゲットに、時期を降雨で流れが増す梅雨時とし

た上で、庄内空港や田駅にホスターを掲他、SNSで周知を集客。「自然の豊かな酒田の魅力を観光客多くの人から知って活動を行いたい」と。また、「レッツイ行列！」のテーマで5月1日の松山まつで行われる「武者行PR方法について」を班は、「酒武者」と自ら甲冑に身を包み、酒田・砂越両駅、中を練の歩くイベントを考えた。「高校生つこいものが好き」とその家族がタト。貴重な文化・伝わってもらいたい」と。会場に集まった協・団体の関係者は互にそれぞれアドバイ評で荒井理事長は一行に移してほしいと掛けた。